

同志社大学スポーツ健康科学部
2017年度 スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
結果講評について

同志社大学スポーツ健康科学部長

同志社大学スポーツ健康科学部は、2016年10月22日に2017年度「スポーツ能力に優れたものを対象とする特別入試」の合格者を発表しました。

この入試は、高等学校在学中、学業とスポーツに真剣に取り組み、大学入学後も勉学と競技活動の両立を目指す皆さんを対象としたものです。出願に際しては、全国大会に正選手として出場するとともに、高校入学時より第3学年第1学期末までの評定平均値が3.2以上であることが条件となります。

本入試は、第1次選考の書類審査(50点満点)、第2次選考の小論文審査(50点満点)と面接審査(20点満点)で行われ、合格判定は、第1次選考と第2次選考の結果を総合(120点満点)し、厳正に選考します。

第1次選考は受験者の競技成績を中心に行い、判定に際しては各競技種目の競技人口、大会の規模、競技バランス等も加味し、詳細に検討しました。その結果、今年度は70名を合格としました。受験者総数は115名でしたので、この時点で倍率がほぼ1.6倍です。今年度の第1次選考のハードルも昨年同様に比較的厳しい高さとなりました。

第2次選考の小論文審査では、例年同様、課題に対する論理的・客観的思考力および記述力を問いかけています。普段から物事について疑問を持ち、思考する習慣が必要となります。自立できるアスリートにとって必要な力のひとつといえましょう。同志社スポーツが目指すところでもあります。

面接審査は、受験生1名に対して2名の教員で実施しました。同志社大学スポーツ健康科学部への強い進学意欲があり、本学部の教育・研究等をよく把握している受験生が多い中、残念ながら大学での学習意欲を感じることができない方も若干名いました。本学部はスポーツや健康に関するサイエンスを学習する場であると同時に、競技だけではなく広い意味での同志社スポーツの担い手になってくれることを期待しています。クラブ活動のみの実施を希望される場合は、適切な進路先とは言えません。本入試の趣旨の通り、入学後に学業と課外活動を両立させる強い意志を持つ方を希望します。

以上、第1次および第2次選考により41名の合格者を決定しました。今回の合格者は入試要項に記載の通り、本学部のアカデミック・ポリシーの実現のため、様々な競技種目から選出されています。この入試で合格された方が今後本学部を経て社会やスポーツ界のリーダーとして活躍されることを期待します。

以上

<2017年度 入試データ>

	合計	男子	女子
受験者総数	115名	72名	43名
第1次選考合格者	70名	42名	28名
第2次選考合格者	41名	23名	18名

<合格者の競技種目>

アイスホッケー、馬術、バスケットボール、ゴルフ、ハンドボール、柔道、カヌー、空手道、剣道、テニス、弓道、レスリング、陸上競技、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス、水泳、少林寺拳法、新体操、ヨット、太極拳
--

○小論文 <試験問題>

図1は、文部科学省が発表した、『平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書』の一部で、小学生（第5学年）と中学生（第2学年）における1週間の総運動時間の分布を示している。1週間の総運動時間とは、ふだんの1週間について「学校の体育・保健体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを、合計で1日おおよそ何分くらいしていますか」に対する各曜日の回答の合計をあらわす。またこの調査では、総運動時間の長い児童・生徒のほうが、総運動時間の短い児童・生徒よりも体力テストの得点が高い傾向にあることも示されている。図1から読み取れることをまとめた上で、日本の子供の体力についてあなたの考えを800字以上1200字以内で述べなさい。（以下余白。余白は下書きに使用してください。）

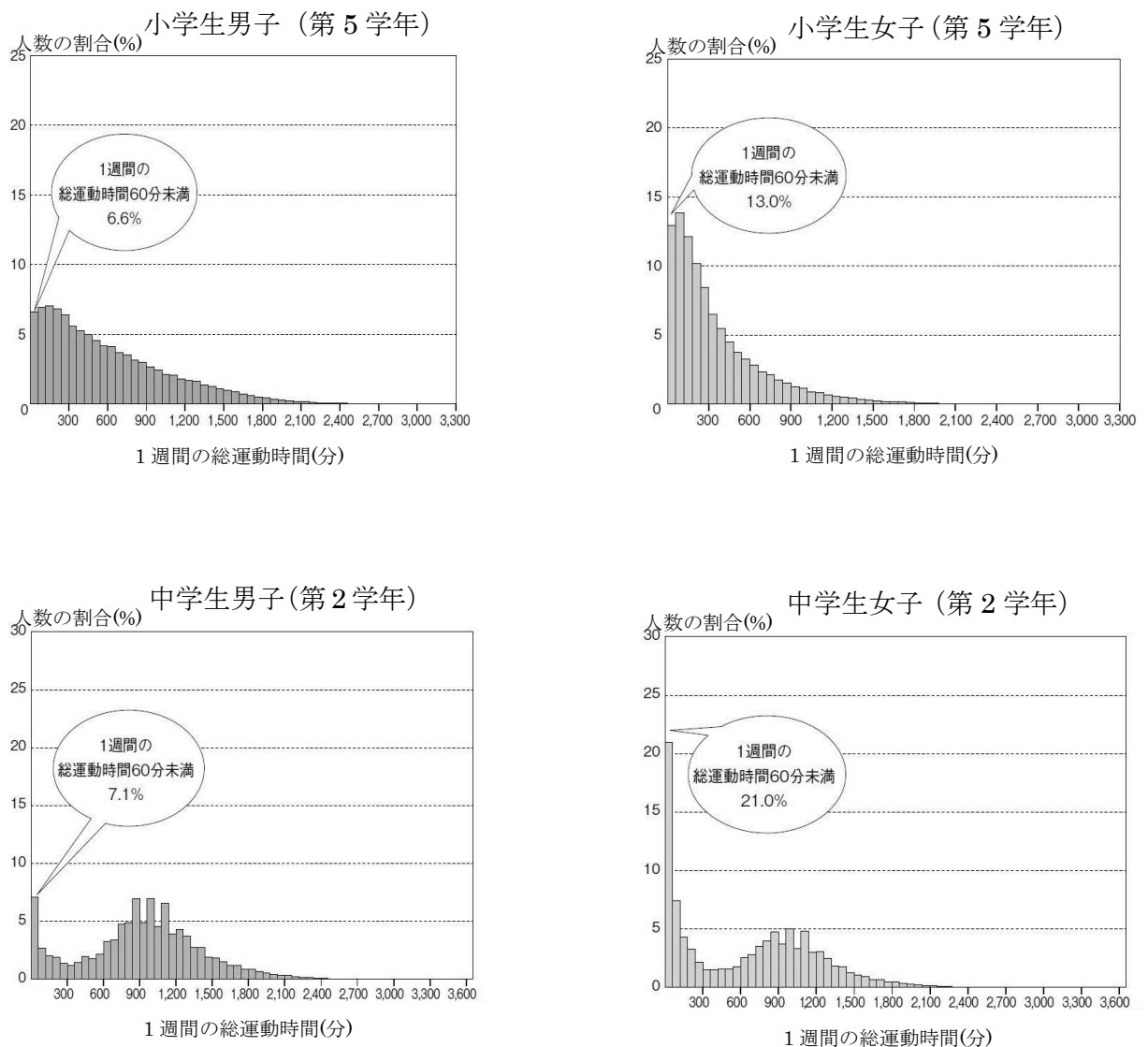


図1 1週間の総運動時間の分布

出典：文部科学省 『平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書』を一部改変。